

「デジタル・アーカイブ速報」No.39

岐阜女子大学 文化創造学部

〒501-2592 岐阜市太郎丸 80

フリーダイヤル 0120-661184

URL <http://www.gijodai.ac.jp/>

岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所(事務局)

〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 4F

TEL 058-212-3257 FAX 058-212-3258

URL <http://www.gijodai.jp/graduate/>

デジタル・アーカイブのプレゼンテーションの評価

デジタル・アーカイブを用いたプレゼンテーションは、図書館、博物館、学校、生涯学習等の各施設、企業等で、広く用いられるようになってきました。特に最近では、電子書籍が、書籍の二次利用から次の近代へ移り、デジタル・アーカイブなどを基礎にして、新しい文化表現がなされています。とくに、教科書等の教材研究では、デジタル（電子）教科書が文化財を用いた多様な提示の方法の研究も進められています。

これらの提示に対する評価の要望があります。特に、デジタル・アーカイブは、利用者が全てを見るのではなく、必要な情報を取り出して利用するため、各コンテンツの利用に必要な観点で評価し、その情報を公開することが要望されています。そこで、これまで、各分野で利用されてきた簡単な評価システムについて、紹介します。これらを参考にして、さらに多様な利用に適した教材が選択するときの情報提供のシステムの構成が育まれます。

デジタル・アーカイブの評価の観点

デジタル・アーカイブの提示の評価は、提示内容、利用目的によって違いがあります。例えば、昔の映画等では、生理反応の利用もされていました。また、アナライザーを用いて提示と反応の測定がなされ、例えば、提示に対し受け止める時間と処理反応時間の理論と実践の研究も進められていました。例えば、正答、または誤答に対し、自信と反応の速さなどの提示に対する研究がなされてきました。

基本的な事項についての評価体系 ～目的に適した評価方法の選択利用～

ところが、デジタル・アーカイブを用いたプレゼンテーションとしては、まだ評価体系が確立されていません。そこで、先ず、最も一般的で、基本的な観点からの評価体系を構成しておき、当面はその中から評価の目的に適用できる方法を用いれば良いと思います。

評価の目的は多様であると思いますが、例えば電子教科書のようないろいろな教材の中から、教育目的に適する資料を選び出し、学習者に提供するような場合は、

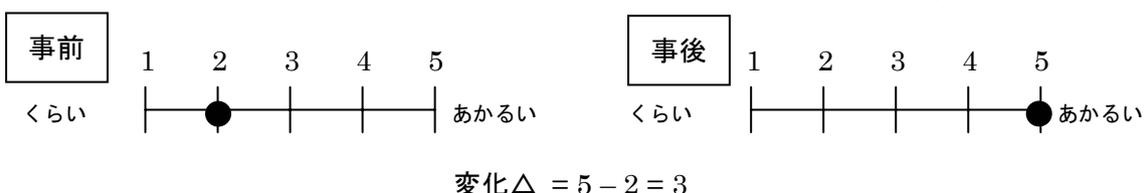
「利用目的に適したコンテンツと選択の参考となる評価情報」の提供
ができるように、評価結果を用意しておく必要があります。

よく用いられてきた評価としては、次のような事項があります。

① イメージ	⑤ 情意面（感情・意識）
② 内容の理解	⑥ 提示の方法
③ 行動分析	⑦ 意識（意欲・探究心等）
④ 自信度	⑧ その他

(1) イメージ（提示の前後のイメージの変化）

コンテンツに対するイメージを調べます。イメージの調査には、事前にコンテンツ（内容）に対し、どのようなイメージをもっているかの調査を、事後にどのようなイメージをもったかの調査の実施が多く、デジタル・アーカイブのコンテンツの評価としては、提示によって、どのようにイメージが変わったかを調べる事が多くあります。例えば、



のようなコンテンツの利用で、各種の同様な調査でイメージの変化を知ることができます。どのような場面での利用が適するか、判断の参考になる情報の提示（流通）ができるようにします。（各種の例が多く、また因子分析等による要因の調査など報告されていますので参考にして下さい。）

(2) 内容の理解等（事前・事後の変化、目標の達成等）

コンテンツの内容理解が、提示によって、どのように変化するのか、また、その達成状況（何がどのようにできるようになるか）などの提示の特性についての情報を提供し、提示の目的に応じてデジタル・アーカイブの選択、利用できるようにします。

(3) 行動（活動）の状況・特性 ～時間と行動のカテゴリー化～

コンテンツの利用にあたって、利用者がどのように行動（活動）をするのか、行動カテゴリーを決め、活動の様子を撮影します。この映像を一般には時間的にサンプリング処理し、何秒、何分間隔でカテゴリー分析を行います。得られたデータを処理し、コンテンツと利用者の行動の関係を調べ、提示と活動の特性を分析します。

（注）行動カテゴリーは、フランダースン、OSIA、坂元、小金井等の多くの研究があります。これらを参考にして、行動の内容的な分類と記号化をします。

(4) 自信についての調査

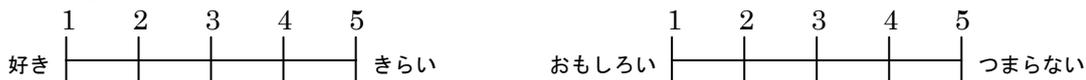
コンテンツの理解の状況と自身の関係を調べることが、昔からなされています。その1つの方法として、次のような観点で回答をさせている例があります。

① 人に聞いてできる	① 自信がある
② テキストを見てできる	② 自信がややある
③ 自分一人のできる	③ 自信がややない
④ 他の人に説明できる	④ 自信がない

この回答結果と内容の理解のクロス関係から、理解の状況と自信との関係を調べることが出来ます。

(5) 情意面（感情・意識）の調査

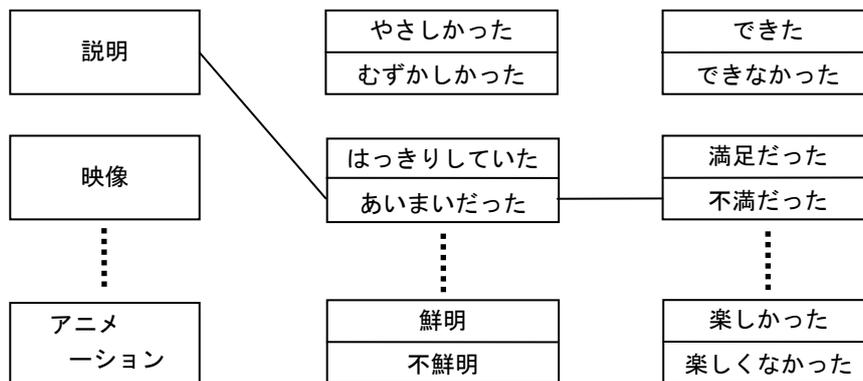
情意調査には、多様な方法があり、その目的に対応した調査・評価方法を検討する必要があります。たとえば、提示に対し、



など質問は、何を調査するかによって決めます。また、イメージとの関連した調査も可能です。

(6) 提示・説明（コンテンツについて）方法の調査・・・（例：結線方式等）

提示内容の方法、情意的な面と結果の関係からプレゼンの考察がされていました。



このような線を結ばせて、何が、なぜ、どうであったかを調べる方法が昔からなされています。これらも、デジタル・アーカイブの開発と改善に役立ちます。

(7) 意識（意欲・探究心、・・・）の調査

デジタル・アーカイブのコンテンツに対し、提示（コンテンツ）の利用目的によつての意欲、やる気、探究心、仕事への意欲等の調査をします。すでに、いろいろな方法で実施されていて、それらの項目の中から、目的に適応した調査項目を設定し、調査をすることが

大切です。(よく、自分だけの調査項目を作成されていますが、他との比較が困難ですので、ぜひ共通化をして下さい。)

(8) その他

デジタル・アーカイブのプレゼンに対する意見、反応、記録の記述(言語)の分析がなされています。これはポートフォリオ等の言語記録と併せ、その言語行動をカテゴリー化し分析されています。

デジタル・アーカイブの評価は、一種類の評価方法で調べるのではなく、評価の目的に対応させ、その方法を選ぶ必要があります。

それで、表のように評価の計画を立てる必要があります。また、これらの調査結果は、検定等の処理そして、結果の適否のチェックが必要です。

総合的な調査方法(デジタル・アーカイブのプレゼンの評価)

評価の観点(カテゴリー・分類)・評価目的・方法・処理

[] 2010年 月 日 計画者 []

観点(カテゴリー・分類)	評価目的	調査方法・処理	結果の分析・特性	参考
(1)イメージの変化				
(2)内容の理解等 (事前・事後の変化、 およびプロセスの評価)				
(3)行動分析				
(4)自信度等 (理解との関係も配慮)				
(5)情意(感情・意識)				
(6)提示の方法				
(7)意識(意欲・探究心等)				
(8)その他 (記述の調査・評価)				

((1)、(5)、(7)は意識調査としてまとめます。)

各評価方法は、昔から使われてきました。しかし、それぞれの調査項目については、デジタル・アーカイブに適した項目の設定が必要であります。また、対象とするデジタル・アーカイブについて、どのような目的で調査するかを決め、それに適した方法の選択の仕方今後の課題です。

また、各調査項目が、枠にはめるデジタル(カテゴリー化)であります。このため、一つ一つは、ファジーな情報であり、これらを組み合わせ、その結果を参考に知識・知恵と感性・技術を使い、よりよいデジタル・アーカイブのプレゼンを作成したいものです。

(文責 後藤)